

「罪はゆるされた」

マルコによる福音書 2章 1節～12節

説 教 田澤節子神学生(東京神学大学)

ガリラヤ湖の北西にあるカペナウムの村。家の中を覗こうと、大勢の人がやってきて、入り口は人ばかりです。「イエスが戻って来たそうだ」と人々が集まってきました。家の中にはイエス様が座って、「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ。」と御言葉を語っておられました。イエス様はガリラヤ中の会堂で教え、悪霊を追い出されました。イエス様は御自分の業を通して、今ここに神さまがおられることをお示しなっていました。神様によって集められた人々に向かって、イエス様は御言葉を語っておられました。

そこに4人の人が病人を運んで来ました。部屋の中に入れなかった4人は、屋根に登り、屋根を剥がして穴をあけ、病人を板に寝かせたまま降り降ろします。危険で、迷惑、非常識な行動です。けれどもイエス様は、病人の癒しを熱心に求めているこの4人の思いと行動に信仰を見つけてくださいました。4人は、この病人の癒しを真剣に神様に祈っていました。自分の信仰を行動にあらわそうとか、自分たちの頑張りや病気を癒してもらおうという思いはありません。ただイエス様に期待して、この人のために癒しを求めて行動しました。神様は熱心に求めることを喜ばれます。この病人のための、4人の祈りの行動をイエス様はお喜びになりました。

しかし私達はイエス様の言葉に驚きます。イエス様は病人に「子よ、あなたの罪は赦された」(5節)とおっしゃったからです。私達も、運んできた4人、この場に集められた人々も、期待したのは病の癒しです。イエス様は、病気の原因が罪だから罪を赦すとおっしゃったのではなく、病気であってもなくても、人間にとって一番大きな問題は罪だからです。罪とは、的外れという言葉。私達は、神様に向かわず、神様に背中を向けて、自分中心に、神様などいないように、まるで自身が神のように生きています。このように生きる人間は次々と罪を重ねます。

イエス様は、人間にとって最も必要な「罪の赦し」を宣言してくださいました。罪が赦されることで、人の全てが回復します。この「ゆるされた」の元の言葉は「ゆるされる」という現在形で書かれています。過去の話ではなく、未来の話でもありません。まさに今「あなたの罪は神によってゆるされる」しかもイエス様は、この病人本人の信仰を問わず、熱心にイエス様

を求める4人の信仰を見て、罪の赦しを宣言してくださいました。

しかしこの言葉に律法学者はつまずきました。彼らは熱心に聖書を学び、神様に忠実に、律法を守ろうとする信仰的な人達です。その中の一人が心の中で「神をけがすことだ。神ひとりのほかに、だれが罪をゆるすことができるか」(7節)とつぶやきました。正しい考えです。彼らは救い主が来られることを待っていたのに、目の前にいらっしゃるイエス様こそが、この地上でただひとり罪を赦すことができる救い主であると気付かせませんでした。この声にもなっていないつぶやきに、人間の罪深さが現れています。外には出ていない人間の罪が、イエス様を十字架にかけることになるのです。

時が満ちて、神の国が近づいたとイエス様は語られます。神の国が近づいた今、悔い改めが起こり、罪が赦されます。イザヤ書にあるように「そのとき、見えない人の目は開かれ、聞こえない人の耳は聞こえるようになる」(イザヤ書35章5節)のです。神さまとの関係が回復し、罪赦されることで全てのことが回復する。私達は、イエスさまの権威ある赦しをアーメンと受け入れるのか。それともイエスさまのことを、神を冒瀆する者だとして受け入れないのか、どちらかしかありません。罪を赦す権威を持ったイエス様ご自身が、私達の罪を背負って、身代わりとなって、十字架にかかってくださいました。

イエス様は病人に「起きよ、床を取りあげて家に帰れ」(11節)と命じました。動くこともできなかった、屋根の穴から降り降ろされた病人は、起き上がり、床を担いで、人々の間を通り抜け、自分の足で歩いて出ていきました。罪赦されたこの人の足取りは、とても軽く、心は喜びで満ち、神様の御業をしっかりと証ししながら帰って行ったことでしょう。イエス様はこれらの言葉を私達にも語りかけておられます。イエス様と出会った私達に、罪の赦しを宣言し、そして罪を赦された私たちに、イエス様は、「さあ、あなたたちは帰って神さまを証しなさい。」とおっしゃっているのです。

(記 田澤節子)